

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成21年5月28日(2009.5.28)

【公表番号】特表2008-535496(P2008-535496A)

【公表日】平成20年9月4日(2008.9.4)

【年通号数】公開・登録公報2008-035

【出願番号】特願2008-505634(P2008-505634)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 1 2 Q 1/68 (2006.01)

A 6 1 K 48/00 (2006.01)

A 6 1 K 31/7105 (2006.01)

A 6 1 P 31/16 (2006.01)

A 6 1 P 37/04 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

C 1 2 Q 1/68 A

A 6 1 K 48/00

A 6 1 K 31/7105

A 6 1 P 31/16

A 6 1 P 37/04

【手続補正書】

【提出日】平成21年4月7日(2009.4.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

呼吸器系ウィルス転写体を標的とする RNA i 誘発性実体において、前記 RNA i 誘発性実体が約 15 から 60 のヌクレオチド長の の siRNA からなり、前記 RNA i 誘発性実体が感染した被験体に鼻腔内、気管内、又は静脈内投与されるときにウィルス産生を少なくとも 30 - 50 倍低下させるのに十分な RNA 濃度で；

a . 配列番号 7 及び 5503 から 5506 から成る群より選択される第 1 核酸配列と；

b . 第 1 核酸配列に対して少なくとも 84 % 相補的である第 2 核酸配列と；

を具備することを特徴とする RNA i 誘発性実体。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の RNA i 誘発性実体において、前記 RNA i 誘発性実体が約 15 から約 40 のヌクレオチド長であり、前記第 2 核酸配列が、前記第 1 核酸配列に対して少なくとも 89 %、好ましくは 94 % 相補的であることを特徴とする RNA i 誘発性実体。

【請求項 3】

請求項 1 又は 2 に記載の RNA i 誘発性実体を具備することを特徴とする組成物。

【請求項 4】

請求項 3 に記載の組成物が更に、陽イオン性ポリマーを具備することを特徴とする組成物

。

【請求項 5】

インフルエンザウィルス感染の治療または予防に使用する、請求項 1 又は 2 に記載の R

RNAi 誘発性実体。

【請求項 6】

インフルエンザウイルス感染の治療または予防に使用する、請求項 3 又は 4 に記載の組成物。

【請求項 7】

請求項 5 に記載の使用のための RNAi 誘発性実体において、前記 RNAi 誘発性実体が、被験体の体重の約 0.1 mg / kg から被験体の体重の約 20 mg / kg の濃度で前記被験体に投与されることを特徴とする RNAi 誘発性実体。

【請求項 8】

請求項 6 に記載の使用のための組成物において、前記 RNAi 誘発性実体が、被験体の体重の約 0.1 mg / kg から被験体の体重の約 20 mg / kg の濃度で前記被験体に投与されることを特徴とする組成物。

【請求項 9】

請求項 5 に記載の使用のための RNAi 誘発性実体において、前記 RNAi 誘発性実体が、被験体の体重の約 0.1 mg / kg から被験体の体重の約 10 mg / kg の濃度で前記被験体に投与されることを特徴とする RNAi 誘発性実体。

【請求項 10】

請求項 6 に記載の使用のための組成物において、前記 RNAi 誘発性実体が、被験体の体重の約 0.1 mg / kg から被験体の体重の約 10 mg / kg の濃度で前記被験体に投与されることを特徴とする組成物。

【請求項 11】

請求項 5 に記載の使用のための RNAi 誘発性実体において、前記 RNAi 誘発性実体が、被験体の体重の約 0.1 mg / kg から被験体の体重の約 50 mg / kg の濃度で前記被験体に投与されることを特徴とする RNAi 誘発性実体。

【請求項 12】

請求項 6 に記載の使用のための組成物において、前記 RNAi 誘発性実体が、被験体の体重の約 0.1 mg / kg から被験体の体重の約 50 mg / kg の濃度で前記被験体に投与されることを特徴とする組成物。

【請求項 13】

ウイルス感染を診断する方法において、被験体が請求項 1 または 2 に記載の RNAi 誘発性実体による阻害に対して感受性を有するウイルスに感染したかどうかを決定するステップを具えることを特徴する方法。